

平成20年12月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年11月14日

上場会社名 カルナバイオサイエンス株式会社
 コード番号 4572
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉野 公一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 島川 優

上場取引所 J Q・NEO
 URL <http://www.carnabio.com>
 TEL (078)302-7039

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年12月期第3四半期の連結業績 (平成20年1月1日～平成20年9月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年12月期第3四半期	380	—	△197	—	△246	—	△252	—
19年12月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—
(参考)19年12月期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20年12月期第3四半期	△4,990	71	—	—
19年12月期第3四半期	—	—	—	—
(参考)19年12月期	—	—	—	—

- (注) 1. 当期より連結財務諸表を作成しているため、平成19年12月期第3四半期および平成19年12月期の数値の記載ならびに前年同四半期との対比は行っていません。
 2. 平成20年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
20年12月期第3四半期	2,251	2,053	91.2	38,555	50
19年12月期第3四半期	—	—	—	—	—
(参考)19年12月期	—	—	—	—	—

(注) 当期より連結財務諸表を作成しているため、平成19年12月期第3四半期および平成19年12月期の数値の記載は行っていません。

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年12月期第3四半期	△168	△125	813	1,719
19年12月期第3四半期	—	—	—	—
(参考)19年12月期	—	—	—	—

(注) 当期より連結財務諸表を作成しているため、平成19年12月期第3四半期および平成19年12月期の数値の記載は行っていません。

2. 配当の状況

	1株当たり配当金
(基準日)	第3四半期末
19年12月期第3四半期	円 銭 — —
20年12月期第3四半期	— —

3. 平成20年12月期の連結業績予想（平成20年1月1日～平成20年12月31日）

【参考】

(%表示は対前期増減率)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %	円 銭
通 期	712 —	△284 —	△333 —	△592 —	△11,553 19

(注)平成20年8月6日に公表いたしました平成20年12月期の通期の業績予想から変更はありません。また、平成20年12月期の連結業績予想の1株当たり当期純利益は、平成20年12月期の予定期末発行済株式数53,270株に基づく期中平均株式数により算出しております。なお潜在株式が存在いたしますが、当算定には含まれておりません。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 有
新規 1社（社名 CarnaBio USA, Inc.） 除外 1社（社名 —）
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無： 有
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無： 無
- (注) 詳細は、6ページ【定性的情報・財務情報等】4. その他をご覧ください。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現時点において入手可能な情報に基づいて作成しておりますが、実際の業績等は様々な要因により予想と異なる結果となる場合があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

＜事業損益の概況＞

当第 3 四半期における世界経済は、昨年来のサブプライムローン問題に端を発した米国大手金融機関の破綻等、金融市場の危機的混乱により、減速感が強まってきております。また、国内経済においても世界的な金融市場の混乱の影響やエネルギー・原材料価格の高騰による個人消費の冷え込み、雇用情勢および企業業績が悪化の傾向にあるなど、景気の減速感がますます強まってきております。

当社グループが属する製薬業界におきましても状況は厳しさを増しており、さらに大手製薬企業は、所謂「2010 年問題」（＝これまで安定的な収益確保に寄与してきた大型医薬品の特許が 2010 年前後に切れることによって、製薬企業の収益減少が見込まれる。）に直面していることから、将来の安定的な収益を確保すべく後継医薬品の開発に各社しのぎを削っており、各社とも多額の研究開発費を新薬開発に積極的に投じ、また、有望なパイプラインを有する創薬ベンチャー企業を買収するなど、大手製薬企業間の競争がますます激しくなっております。しかし、当社はこれを新たなビジネスチャンスとして捉え、チャレンジしてまいります。

このような状況下、当社グループは、キナーゼ創薬に係る創薬基盤技術を核とした創薬支援事業ならびに創薬事業を積極的に展開し、事業の拡大を図ってまいりました。

創薬支援事業については、研究開発面では当社製品・サービスの品揃えの更なる拡充のための積極的な研究開発活動を進める一方で、営業面では北米地区を中心に新規顧客の獲得や既存顧客の取引拡充に資するプロモーションを積極的に展開し、さらに、米国に子会社を設立した効果により北米顧客への製品・サービスの納期短縮や輸送コストの低減を実現しました。その結果、米国での製品販売が順調に推移し、米国子会社の売上高は計画を若干上回ることができましたが、当社グループ全体の売上高としましては、計画を若干下回りましたが概ね計画通りの進捗となりました。

創薬事業については、第 2 四半期に研究を開始しました国立がんセンターとの共同研究を含めた他社・他の研究機関との共同研究プロジェクト、および自社単独での研究プロジェクトが計画通り進捗いたしました。

以上の結果、当第 3 四半期の売上高は 380 百万円となりました。地域別の売上としましては、国内売上高は 227 百万円、海外売上高は 152 百万円となりました。一方、損益面におきましては、当社製品・サービスの品揃えの拡充や共同創薬および自社創薬に係る積極的な研究開発活動に伴う研究開発費および株式公開に関する費用が嵩んだ結果、営業損失 197 百万円、経常損失 246 百万円、四半期純損失 252 百万円となりました。

各事業別の概況は次の通りです。

(1) 創薬支援事業

キナーゼタンパク質の販売、アッセイ開発、プロファイリング・スクリーニングサービスの提供により、創薬支援事業の売上高は 359 百万円、営業利益は 58 百万円となりました。

売上高の主な内訳は、キナーゼタンパク質の販売 201 百万円、アッセイ開発 45 百万円、プロファイリング・スクリーニングサービスの提供 104 百万円であります。

(2) 創薬事業

SBI バイオテック株式会社および Crystal Genomics, Inc. (以下、「クリスタルゲノミクス社」と

いう。)とのガンを対象疾患としたキナーゼ阻害薬の3社共同研究に係る売上高は13百万円となり、国立がんセンターとのガンを対象疾患としたキナーゼ阻害薬の共同研究に係る売上高は7百万円となり、これらの結果、創薬事業の売上高は20百万円、営業損失は256百万円となりました。

<研究開発の概況>

当第3四半期における当社グループが支出した研究開発費は203百万円でした。

当第3四半期における研究開発活動は、次のとおりであります。

(1)創薬基盤技術の強化

キナーゼタンパク質の品揃え、キナーゼパネルの開発に注力した結果、当社グループが保有するキナーゼタンパク質の数は、平成20年9月末時点で304種類（活性ミュータントキナーゼ、非活性キナーゼおよび非活性ミュータントキナーゼを除く）となりました。

(2)創薬研究

①クリスタルゲノミクス社との2社共同研究

クリスタルゲノミクス社と共同で行っている免疫・アレルギーおよびガンを対象疾患としたキナーゼ阻害薬の共同研究については、最適化研究を進めております。なお、本共同研究に関しましては、既に特許出願中です。

②SBIバイオテック株式会社およびクリスタルゲノミクス社との3社共同研究

SBIバイオテック株式会社およびクリスタルゲノミクス社と共同で行っているガンを対象疾患としたキナーゼ阻害薬の研究については、最適化研究を進めております。

③自社創薬研究

自社単独で行っている循環器系疾患を対象疾患としたキナーゼ阻害薬の研究については、最適化研究を進めております。

④国立がんセンターとの共同研究

国立がんセンターと共同で行っているガンを対象疾患としたキナーゼ阻害薬の研究については、現在、リード化合物の創製研究を進めております。

上記の創薬研究の状況をまとめると次のとおりです。

研究テーマ	種類	共同研究パートナー	進捗状況
①免疫・アレルギーおよびガンを対象疾患とするキナーゼ阻害薬の研究	共同研究	クリスタルゲノミクス社	リード化合物の最適化
②ガンを対象疾患とするキナーゼ阻害薬の研究	共同研究	SBIバイオテック株式会社 クリスタルゲノミクス社	リード化合物の最適化
③循環器系疾患を対象とするキナーゼ阻害薬の研究	自社研究	—————	リード化合物の最適化
④ガンを対象疾患とするキナーゼ阻害薬の研究	共同研究	国立がんセンター	リード化合物の創製

※ 今回より、研究テーマの記載順序を「マイルストーン開示に係る事業計画について」に合わせております。

⑤大学との共同研究

公立大学法人大阪府立大学（理学系研究科生物科学専攻、構造生物学）とは、キナーゼのタンパク質の結晶化に関する共同研究ならびに同大学（理学系研究科生物科学専攻、生体分子科学分野・生命化学）とは、タンパク質の立体構造情報から低分子化合物を設計する共同研究を行なっております。また、国立大学法人愛媛大学とはガンに関する共同研究を行っております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期末における総資産は2,251百万円、負債は197百万円、純資産は2,053百万円となり、自己資本比率は91.2%となりました。

なお、当期より連結財務諸表を作成しているため、前年度との比較は行っておりません。

(2) キャッシュ・フローの状況に関する分析

現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動により168百万円、投資活動により125百万円減少する一方で、財務活動により813百万円増加した結果、当第3四半期末においては1,719百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用した資金は、168百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失、前受金の増加および棚卸資産の増加と減価償却費の計上の差し引きによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、125百万円となりました。これは主に定期預金への預入れと有形固定資産の取得による支出によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により獲得した資金は、813百万円となりました。これは主に株式の発行による収入によるものです。

当社グループのキャッシュ・フロー指標のトレンドは次のとおりであります。

	平成18年12月期	平成19年12月期	平成20年12月期 第3四半期
自己資本比率 (%)	85.3	88.5	91.2
時価ベースの 自己資本比率 (%)	—	—	62.7
債務償還年数 (年)	—	—	—
インタレスト・カバレッジ・ レシオ (倍)	—	—	—

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

債務償還年数：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

- (注) 1 各指標は、いずれも財務数値により計算しております。なお、平成 20 年 12 月期第 3 四半期より、連結ベースで計算しております。
- 2 平成 18 年 12 月期および平成 19 年 12 月期の時価ベースの自己資本比率は、各期末において当社グループは非上場であり、当社株式の時価がないため、記載しておりません。平成 20 年 12 月第 3 四半期の株式時価総額は、当第 3 四半期末株価終値×自己株式控除後の当第 3 四半期末発行済株式数により算出しております。
- 3 債務償還年数は、営業キャッシュ・フローの金額がマイナスのため記載しておりません。
- 4 営業キャッシュ・フローはキャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。また、利払いについては、損益計算書の支払利息の金額を使用しております。
- 5 インタレスト・カバレッジ・レシオは、営業キャッシュ・フローの金額がマイナスのため記載しておりません。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

中長期的には、大手製薬企業によるキナーゼをターゲットとした創薬研究が引き続き積極的に展開されるものと想定され、当社グループの製品・サービスに対する国内外の製薬企業等からの継続的な需要が期待できるものと考えられます。

昨今の世界経済の状況は厳しさを増しておりますが、創薬支援事業においては、第 2 四半期に設立および営業開始しました北米の子会社を拠点として、北米顧客への積極的なマーケティング活動を展開し、新規顧客の開拓および既存顧客との取引拡大に取り組んでおります。また、欧米の大手製薬企業とプロファイリングサービスの年間契約受注に向け、全社一丸となって取組みを進めております。

他方、創薬事業においては、最新の研究設備の導入および優秀な人材の採用により各プロジェクトの創薬研究を加速し、早期の化合物の導出に向け鋭意研究に取り組んでおります。

平成 20 年 8 月 6 日に公表いたしました当社グループの平成 20 年 12 月期の通期の連結業績予想につきましては、第 4 四半期に上記取組みの成果を計画しており、売上高 712 百万円、営業損失 284 百万円、経常損失 333 百万円、また、創薬事業の追加の設備・機器への投資については、同事業が未だ営業赤字であることから「固定資産の減損に係る会計基準」に従い減損処理を行い、これにより特別損失を計上することから、当期純損失 592 百万円を見込んでおり、現時点において業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

CarnaBio USA, Inc. を新規設立し、第 2 四半期から連結子会社としております。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

法人税等の計上基準に簡便的な方法を採用しております。

その他影響等が僅少なものについても一部簡便的な方法を採用しております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

該当事項はありません。

5.（要約）四半期連結財務諸表

当期より連結財務諸表を作成しているため、平成19年12月期第3四半期および平成19年12月期の数値並びに増減については記載していません。

（1）（要約）四半期連結貸借対照表

（単位：千円、％）

科目	前年同四半期末 〔平成19年12月期〕 第3四半期末	当四半期末 〔平成20年12月期〕 第3四半期末	増減		(参考)前期末 (平成19年12月期末)
	金額	金額	金額	増減率	金額
(資産の部)					
I 流動資産					
1 現金及び預金	—	718,789	—	—	—
2 売掛金	—	62,754	—	—	—
3 有価証券	—	1,100,304	—	—	—
4 製品	—	41,411	—	—	—
5 原材料	—	10,796	—	—	—
6 仕掛品	—	10,314	—	—	—
7 貯蔵品	—	4,636	—	—	—
8 前払費用	—	47,161	—	—	—
9 その他	—	5,884	—	—	—
流動資産合計	—	2,002,054	—	—	—
II 固定資産					
1 有形固定資産					
(1) 建物付属設備	—	9,211	—	—	—
(2) 機械及び装置	—	2,055	—	—	—
(3) 工具器具備品	—	56,677	—	—	—
(4) 建設仮勘定	—	10,000	—	—	—
有形固定資産合計	—	77,944	—	—	—
2 無形固定資産					
(1) 商標権	—	609	—	—	—
(2) ソフトウェア	—	11,240	—	—	—
(3) 電話加入権	—	131	—	—	—
無形固定資産合計	—	11,981	—	—	—
3 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券	—	121,733	—	—	—
(2) 長期前払費用	—	17,642	—	—	—
(3) 差入保証金	—	19,669	—	—	—
投資その他の資産合計	—	159,045	—	—	—
固定資産合計	—	248,971	—	—	—
資産合計	—	2,251,025	—	—	—

(単位：千円、%)

科 目	前年同四半期末 〔平成19年12月期〕 第3四半期末	当四半期末 〔平成20年12月期〕 第3四半期末	増 減		(参考)前期末 (平成19年12月期末)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(負債の部)					
I 流動負債					
1 買掛金	—	1,608	—	—	—
2 未払金	—	33,605	—	—	—
3 未払費用	—	202	—	—	—
4 未払法人税等	—	2,981	—	—	—
5 前受金	—	72,416	—	—	—
6 預り金	—	64,665	—	—	—
流動負債合計	—	175,480	—	—	—
II 固定負債					
1 繰延税金負債	—	6,445	—	—	—
2 リース資産減損勘定	—	15,248	—	—	—
固定負債合計	—	21,693	—	—	—
負債合計	—	197,174	—	—	—
(純資産の部)					
I 株主資本					
1 資本金	—	1,964,570	—	—	—
2 資本剰余金	—	513,787	—	—	—
3 利益剰余金	—	△432,253	—	—	—
株主資本合計	—	2,046,103	—	—	—
II 評価・換算差額等					
1 その他有価証券評価 差額金	—	9,415	—	—	—
2 為替換算調整勘定	—	△1,667	—	—	—
評価・換算差額等合計	—	7,747	—	—	—
純資産合計	—	2,053,851	—	—	—
負債純資産合計	—	2,251,025	—	—	—

（2）（要約）四半期連結損益計算書

（単位：千円、％）

科 目	前年同四半期 〔平成19年12月期〕 第3四半期	当四半期 〔平成20年12月期〕 第3四半期	増 減		（参考）前期 （平成19年12月期）
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
I 売上高	—	380,101	—	—	—
II 売上原価	—	93,120	—	—	—
売上総利益	—	286,980	—	—	—
III 販売費及び一般管理費	—	484,733	—	—	—
営業損失	—	197,752	—	—	—
IV 営業外収益	—	4,461	—	—	—
V 営業外費用	—	53,160	—	—	—
経常損失	—	246,451	—	—	—
VI 特別損失	—	5,219	—	—	—
税金等調整前 四半期(当期)純損失	—	251,671	—	—	—
法人税、住民税及び事業税	—	753	—	—	—
四半期(当期)純損失	—	252,424	—	—	—

（3）（要約）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

区分	前年同四半期 〔平成 19 年 12 月期〕 第 3 四半期	当四半期 〔平成 20 年 12 月期〕 第 3 四半期	(参考)前期 (平成 19 年 12 月期)
	金額	金額	金額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期（当期）純損失	—	△251,671	—
減価償却費	—	29,477	—
減損損失	—	176	—
固定資産除却損	—	346	—
受取利息	—	△2,769	—
有価証券利息	—	△760	—
支払利息	—	128	—
株式交付費	—	8,398	—
株式公開費用	—	36,588	—
リース資産減損勘定の取崩	—	△8,577	—
売上債権の増減額（△は増加）	—	414	—
たな卸資産の増減額（△は増加）	—	△20,845	—
仕入債務の増減額（△は減少）	—	1,608	—
預り金の増減額（△は減少）	—	△592	—
仮払金の増減額（△は増加）	—	△530	—
前払金の増減額（△は増加）	—	1,497	—
前受金の増減額（△は減少）	—	72,012	—
立替金の増減額（△は増加）	—	1,892	—
未払金の増加額（△は減少）	—	△14,589	—
前払費用の増減額（△は増加）	—	△11,546	—
未収消費税等の増減額（△は増加）	—	△5,308	—
未払費用の増減額（△は減少）	—	△9,072	—
長期前払費用の増減額（△は増加）	—	12,710	—
差入保証金の払込による支出	—	△11,411	—
その他	—	1,504	—
小計	—	△170,917	—
利息及び配当金の受取額	—	3,510	—
利息の支払額	—	△142	—
法人税等の支払額	—	△1,257	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	—	△168,807	—

	前年同四半期 〔平成19年12月期〕 第3四半期	当四半期 〔平成20年12月期〕 第3四半期	(参考)前期 (平成19年12月期)
区分	金額	金額	金額
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	—	△19,468	—
無形固定資産の取得による支出	—	△6,115	—
定期預金預入による支出	—	△100,000	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	—	△125,584	—
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
長期借入金の返済による支出	—	△25,000	—
株式の発行による収入	—	874,691	—
株式公開費用の支出	—	△36,588	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	813,102	—
IV 現金及び現金同等物に係る 換算差額	—	△647	—
V 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	—	518,064	—
VI 現金及び現金同等物の期首残高	—	1,201,029	—
VII 現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	—	1,719,093	—

（４）セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当四半期（平成 20 年 12 月期第 3 四半期）

	創薬支援事業（千円）	創薬事業（千円）	連結（千円）
売上高			
外部顧客に対する売上高	359,355	20,745	380,101
計	359,355	20,745	380,101
営業費用	301,097	276,756	577,853
営業利益又は営業損失（△）	58,258	△256,010	△197,752

〔所在地別セグメント情報〕

当四半期（平成 20 年 12 月期第 3 四半期）

	日本（千円）	北米（千円）	計（千円）	消去又は全社（千円）	連結（千円）
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	341,837	38,264	380,101	—	380,101
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	30,986	—	30,986	(30,986)	—
計	372,823	38,264	411,087	(30,986)	380,101
営業費用	555,552	48,509	604,061	(26,208)	577,853
営業損失	△182,728	△10,244	△192,973	(4,778)	△197,752